

# 朝霞市子ども・子育て支援事業計画

## 平成29年度実施事業進捗状況報告

朝霞市子ども・子育て会議

平成31年3月

## 目次

1. 平成29年度実施事業の進捗管理・評価を実施して.....	1
2. 朝霞市子ども・子育て支援事業計画の進捗管理について.....	2
3. 実施事業の進捗状況（総括）.....	3
4. 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況.....	4
5. 子ども・子育て支援事業計画関連事業の進捗状況.....	35
6. 朝霞市子ども・子育て会議活動状況.....	40
7. 朝霞市子ども・子育て会議条例.....	41
8. 朝霞市子ども・子育て会議委員名簿（平成30年度）.....	44

## 1. 平成29年度実施事業の進捗管理・評価を実施して

国は、子育て家庭を取り巻く状況が急激に変化する中で、保育園における待機児童問題が解消されないといった社会的な課題が新たに発生していること等を踏まえて、平成24年に「子ども・子育て支援法」を含む「子ども・子育て関連3法」を制定しました。

本市においては、「次世代育成支援対策推進法」に基づき、平成16年度から「あさか子どもプラン 朝霞市次世代育成支援行動計画（前期：平成17年度から平成21年度）（後期：平成22年度から平成26年度）」（以下「あさか子どもプラン」という。）を策定し、子育てに関する施策・事業が実施されてきました。

また、平成27年度には、子ども・子育て支援新制度が開始されたことに伴い、本市の新たな子ども・子育てに関する計画として「朝霞市子ども・子育て支援事業計画」（以下「本計画」という。）が策定されました。

本計画は、あさか子どもプランを継承していることから、進捗管理・評価については、あさか子どもプランと同様の方法で、以下のように実施しました。

- ① いくつかの事業（今年度は「ファミリー・サポート・センター事業」、「施設における人権擁護等の体制整備の検討」、「内職相談」）については、事業の具体的な内容や実施方法などを知るために、担当課の方にインタビューを実施し、意見交換しました。
- ② 本計画において、「量の見込み」、「確保の内容」及び「確保の方策」を定めている11事業については、各委員が評価とコメントを提出しました。
- ③ 子ども・子育て支援事業計画関連事業については、事業担当課の評価と異なる場合には「評価検討シート」を、事業担当課と評価は同じでも意見やコメントを記入したい場合には「評価コメントシート」を提出しました。
- ④ 委員の間で評価が異なった場合には会議で議論し、子ども・子育て会議としての評価を統一しました。

待機児童が生じている「放課後児童クラブ」、生後4か月までの乳児のいる全ての家庭を訪問する「乳児家庭全戸訪問事業」、養育支援が必要な家庭を訪問・支援する「養育支援訪問事業及び要保護児童支援事業」、事業の実施に至っていない「病児・病後児保育事業」などの課題を有する事業では委員の評価も少し分かれていましたが、最終的には、会議として評価を統一しました。これらの事業については、今後の事業の進捗を注視したいと思います。

平成31年3月  
朝霞市子ども・子育て会議

## 2. 朝霞市子ども・子育て支援事業計画の進捗管理について

### ① 朝霞市子ども・子育て会議の役割

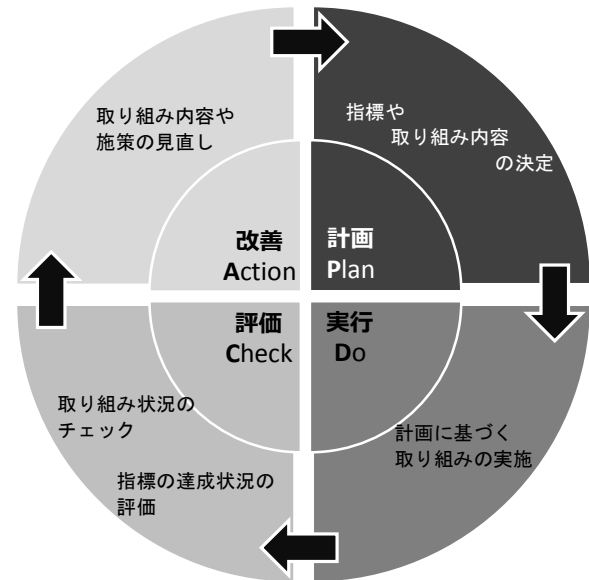
本計画の推進は、行政だけでなく、さまざまな分野での連携が必要であり、家庭をはじめ、保育園、幼稚園、学校、地域、その他関係機関・団体等との連携・協働により取り組んでいきます。

そのため、朝霞市子ども・子育て会議を計画の評価・検証をする機関とし、本計画の進捗管理を行います。

### ② 計画の評価・検証・公表

計画の実現のためには、計画に即した事業がスムーズに実施されるように管理するとともに、計画の進捗状況について需要と供給のバランスがとれているかを把握し、年度ごとの実施状況および成果を点検・評価し、検証していく必要があります。

このため、朝霞市子ども・子育て会議において年度ごとに事業の進捗状況の把握・評価を行い、その結果について、ホームページ等を通じて公表していきます。



### ③ 進捗管理の実施内容

平成29年度実施事業に対して、次のとおり進捗管理を行いました。

- 本計画及び本計画関連事業について、事業実施担当課から、「朝霞市子ども・子育て支援事業計画 進捗管理シート」（以下「進捗管理シート」という。）及び「朝霞市子ども・子育て支援事業計画 関連事業 進捗管理シート」（以下「関連事業進捗管理シート」という。）の提出を受け、事業の進捗状況を把握しました。
- 事業実施担当課から提出のあった進捗管理シートに対して、各委員がそれぞれの判断によりコメント等の記載及び事業評価を行いました。
- 事業実施担当課から提出のあった関連事業進捗管理シートに対して、可能な範囲で各委員がそれぞれの判断によりコメント等の記載及び事業評価を行いました。
- 進捗管理の一環として、本計画及び本計画関連事業のうち、各委員が特に関心の強い事業について事業実施担当課へのインタビューを実施しました。

#### 《平成30年度インタビュー実施事業》

- 事業番号2-⑨ ファミリー・サポート・センター事業（保育課）
- 事業番号21 施設における人権擁護等の体制整備の検討（保育課）
- 事業番号69 内職相談（産業振興課）

### 3. 実施事業の進捗状況（総括）

#### ① 朝霞市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況

進捗状況	H27	H28	H29	H30	H31
A：着実に進捗している 達成状況 100%～80%	8	8	9		
B：ある程度進捗している 達成状況 79%～60%	2	2	2		
C：進捗が順調でない 達成状況 59%～40%	1	1	0		
D：進捗していない 達成状況 39%以下	0	0	0		
計	11	11	11		

#### ② 朝霞市子ども・子育て支援事業計画関連事業の進捗状況

進捗状況	H27	H28	H29	H30	H31
A：着実に進捗している 達成状況 100%～80%	106	103	108		
B：ある程度進捗している 達成状況 79%～60%	9	10	5		
C：進捗が順調でない 達成状況 59%～40%	1	1	0		
D：進捗していない 達成状況 39%以下	0	0	0		
計	116 (※1)	114 (※2)	113 (※3)		

※1 複数の課にまたがる事業について、それぞれ評価したため、事業数より多くなっています。

※2 廃止事業があったため、事業数より少なくなっています。

※3 事業番号93「朝霞市ぐらんぱ育児支援事業」が対象事業から外れたため、H28と比べて1事業少なくなっています。

#### 4. 子ども・子育て支援事業計画の進捗状況

事業名	1 幼児期の学校教育・保育の提供				
事業概要	乳幼児に対する学校教育や保育を適切に提供できるように、保護者のニーズに基づき、幼稚園、保育園、小規模保育事業などの基盤整備を進めます。				
市の現状 (平成28年)	入所者数 幼稚園 2,303人 保育園 2,732人 家庭保育室 107人				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	幼児期の学校教育【幼稚園・認定こども園】(1号認定)				
	①量の見込み(必要利用定員総数) 2,280人				
	②確保の内容(幼稚園、認定こども園) 2,540人				
	幼児期の保育【保育園・認定こども園】(2号認定、3号認定)				
		2号	3号		
			0歳	1・2歳	
	量の見込み (必要利用定員総数)	1,761人	312人	1,184人	
	確保の内容 (保育園・認定こども園)	1,761人	236人	950人	
	確保の内容 (特定地域型保育事業)	0人	49人	189人	
	確保の内容 (家庭保育室等)	0人	27人	45人	
成果	全体定員 3,149人(平成30年4月1日) 保育園 2,872人 小規模 245人 家庭保育室等 32人 入所児童 2,965人(平成30年3月1日時点) 保育園 2,733人 小規模 232人 待機児童 106人(平成30年4月)、114人(平成29年4月)				
推進に関する課題	保育園を希望する家庭が増加する中、待機児童の解消に至っていない。				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	A	A		
コメント	(A評価)				
	・保育園の数を増やしていただいている。引き続き、待機児童ゼロを目指して、ご尽力いただきたい。  ・保育園入所希望者が増加する中、限られた資源を有効に使い定員拡大が図られている。				

## コメント

- ・待機児童の解消はされていない現状ですが、受け入れ枠の拡大など、最大限のことはやっている。待機児童増加については根本的な部分(原因)を解消していかないと解決しない部分であるように思う。
- ・積極的な基盤整備推進が認められるものの、高水準な待機児童が続いていることから、別な視点からの原因究明・対策立案が必要ではないか。
- ・待機児童の解消は課題として残るが、事業としては着実に成果が得られている。
- ・保育施設の拡充や定員の増加など、できる限りの対策をしていると思う。希望者の増加に追いつかない現状に課題はあるが、学童を含め朝霞市の子どもをどの様に育むかの話し合いを続けてほしい。
- ・課題が残る事業もあるが、全体としては進んでいる状況であるため。
- ・待機児童の増加はやむをえないと思いますが、現状として事業拡大されていることを評価できると思います。
- ・待機児童の解消に至っていないが、着実に新園の建設、家庭保育の拡大を進めている。今後さらなる推進が求められる一方で、保育の質の担保、保育士の専門性確保を同時に検討していくことが重要である。
- ・待機児童が増加していることは大きな課題ではありますが、希望している人の中にも本当に必要かどうかの問題もあるし、施設の整備など力を尽くしていただいていると思います。
- ・待機児童解消のため来年度数園の建設が予定されております。保育士の確保と同時に保育士の質の向上に努めてほしい。市として待機児童保育園の増設としっかり進めていると思います。
- ・保育園が着実に増えている。朝霞市は子育てがしやすいと言い、引っ越してくる方が多い。又、子育てしやすいので3人兄弟も増えているので待機児童はなかなか減らないと思う。
- ・出産後も就業継続する女性が増えているのは、とても喜ばしいことであると思います。そのため待機児童が増えています。市内には大きな事業所はあまりありませんが、企業の方に働きかけて事業所内保育園を検討してもらおうという方法もあるのではないかと思います。
- ・受入枠の拡大を図る計画がある。
- ・順調に待機児童の増加に対応していると思います。
- ・待機児童の解消に向けて継続的に尽力していることがよく分かる。今後も保育の質の確保を念頭に置きつつ、引き続き、園児の受け入れ枠の拡大を図って頂きたい。

## (B評価)

- ・待機児童数は前年度に比べてほぼ横ばいだが、その解消に向けて様々な取り組みをしていると感じられた。

## コメント

- ・保育園の量が増えていくのは働く親にとってはありがたいが、質の心配もある。
- ・待機児童の数は、潜在的には表記以上であると考えられる。本当の意味での待機児童の解消のためにも、施設の拡充だけでなく、ソフト面での根本的な改革が行われることを望む。「保育園に子どもを預けて完全に仕事復帰」or「子育てに専念」の2択の分断がそもそも問題ではないか。今どちらかを選択している家庭の中には「子育てと仕事のバランスを両立させたい」と考えている家庭も多いと思われる。この第3の選択肢が実現可能になれば、例えば曜日や時間ごとに保育の提供をシェアしながら、第3の利用者のニーズに応えつつ、又待機児童の緩和にも繋がるのではないか。第3の選択肢を望む家庭がどれ位いるのかはアンケート調査可能？
- ・受入園・枠の拡大については進んでいる。一方「保育の仕事就職説明会」を開催するなどの努力は認められるが、保育士確保や定着率の問題は追いついていない。施設(ハード面)と人員・体制(ソフト面)のバランスの取れた安心できる受け入れができてこそその基盤整備といえるのでは。

### 【質疑・回答】

- ・保育士の質の向上などについて評価をして課題を確認したが、改善方をどこがどう請負い、進めていくかが重要だと思うが、どのように進めて行くのでしょうか。

(担当課回答)

⇒保育園については、評価をいただき課題が抽出されたため、どうしていくかは私どもの方で検討していきます。研修に積極的に参加していただくよう進めており、今後も進めていきます。



事業名	2-① 延長保育事業(時間外保育事業)				
事業概要	保育園を利用する保護者の就労時間の長時間化や通勤範囲の広がり等に伴う、保育時間のニーズを把握し、延長保育の充実を進めます。				
市の現状 (平成28年)	延長保育の実施箇所数				
	実施時間	公設保育園		民設保育園・ 小規模保育施設	
	午後6時から午後7時までの延長保育	9か所		16か所	
	午後7時から午後7時30分までの延長保育	0か所		6か所	
	午後7時30分から午後8時までの延長保育	2か所		15か所	
	計	11か所		37か所	
	延長保育実績 年間利用者数 190,244人 (午後6時以降延べ人数)				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み 1,200人/月 確保の内容 2,943人/月				
成果	全園にて延長保育実施 ※平成27年4月より新制度移行に伴い、園により最大8時まで時間延長。 年間利用者数 196,034人				
推進に関する課題	延長保育料(基本保育時間外)の設定				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	A	A		
	A	A	A		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延長時間が長くなれば良いというのではなく必要ある保護者に、適切な保育が提供されることが、保育の充実と考えます。根拠のあるニーズのもとに、質の良い延長保育の提供がこれからは求められると思います。</li> <li>・保護者のニーズに合わせて、適切に延長保育について検討し、実施して頂いていると思います。</li> <li>・利用者のニーズには対応できていると思いますが、延長保育料につきましては引き続き十分な審議をお願いしたいと思う。</li> </ul>				

## コメント

- ・全園で延長保育が実施され保育ニーズに対応している。
- ・延長保育に係る費用負担をどうするのか、課題が残る。延長保育料が徴収できない公設は延長時間を19時までと一律にし、延長保育料・時間設定の自由度が高い民設・小規模の活用・競争を促進するほうがよいと思う。
- ・事業としての成果が得られている。
- ・保育士採用や労働環境は課題がとても多いが、利用者の希望には可能な限り応えていると思う。
- ・利用実績(利用者数)も伸びてきており、また全園にて延長保育を実施し、受け入れが出来ているため。
- ・利用者数も多く、確実に進捗されていると思います。
- ・利用者のニーズを踏まえ着実に事業が進行している。しかし、利用者の中には自己都合により安易な利用も存在することを聞く。延長保育料の在り方も今後の検討課題と思われる。また、延長保育時の保育者の確保及び安全管理上の問題についての実情が今一つ不明瞭である。延長保育の質についても検討の余地がある。
- ・計画の通り全園にて延長保育を実施したことは評価できると思います。
- ・現行事業の継続がみられる。
- ・保育者のニーズに対して十分に答えられていると思われる。
- ・全園実施した方がよいと思う。
- ・全園にて延長保育が実施されるようになったことで、この事業を必要としている親子が利用しやすくなったことが大きな成果と言える。
- ・保護者のニーズには十二分に対応できていると思う。提供者である保育者への負担が、さらなる保育士離れにつながらないか心配。保育者への配慮がきちんとなされることを望む。
- ・利用者数が年々増加しそのニーズに対応していることは評価できるが、預ける側・預かる側の働き方や預けられたこどもの生活リズムなどを考えると更なるニーズ対応への課題、限界を感じる。
- ・事業番号1もそうですが、問題は保育士不足で、親の方は結果、助かりますが、園の方のシフト状況など大変つらいものがあると思うので、そこを考えていくべきだと思う。
- ・保育者不足のなかで延長保育時間も19時20時と整ってきていると思います。女性の働き方が問題になっておりますが、保育士の労働環境についても考えなければならないと思う。

## コメント

・最大8時までというのは、保育者にも子どもたちにももう限界であると思います。

(B評価)

・開所時間の7時～18時はニーズに応じているのだろうか。フルタイムで働く保護者が18時の迎えは難しい。7時～7時半に預けている保護者は少ない。市として開所時間の設定を柔軟に対応してはどうか。

【質疑・回答】

・今後、さらなる延長を考えていくのか。

(担当課回答)

⇒公設保育園については、現状においては考えておりません。なお、民設保育園については、今後のニーズを把握した上で、必要に応じて事業者と協議していきたいと考えております。

事業名	2-② 放課後児童クラブ				
事業概要	就労等により、昼間家庭に保護者のいない小学生の児童を対象に、放課後や長期休暇中に、保護者に代わって保育の場を提供するものです。				
市の現状 (平成28年)	入所者数(4月1日時点) 1,263人				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み(1~3年生) 1,260人 量の見込み(4~6年生) 500人 量の見込み(合計) 1,760人 確保の内容 1,460人				
成果	放課後児童クラブ数 12室(公設10室、民設2室) 入所者数 1,438人(平成30年4月入所) 入所保留者数 138人(平成30年4月) 75人(平成29年4月)				
推進に関する課題	教室等の活用や、民間放課後児童クラブの整備により受入を拡大しているが、申込数が増加したため、高学年を中心に入所保留が生じている。				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	B	A	A		
	B	A	A		
コメント	(A評価) ・学校教室の活用や民間事業者によるクラブの新設を図り定員拡大が図られている。 ・着実に進捗しており、取り組みの方向性に問題なし。 ・事業としての成果が得られている。 ・実績に対して、しっかりと受け入れ体制が整っているため。 ・利用者、希望者も多い現状で施設として確保するのも大変だと思います。取り組みとしても進んでいると思います。 ・民間の児童クラブも増設され、進んでいるかと思っています。 ・解消に向け努力がなされていると思います。 ・受入枠の拡大を図る計画がある。				

## コメント

- ・放課後児童クラブの利用希望者は年々増加しており、H27年度より対象児童が6年生まで拡大したことから更に増えている中で、小学校の教室や民間業者の活用に意欲的に取り組み、確保の内容に努め、前年度以上に数字を出していることによる。
- ・女性が働くのが当たり前になった今、ほとんどの家庭が利用したいので入所保留は減らない。工夫として学校側で方向が同じ子供たちを集め、なるべく集団で帰宅させて、より安全、安心環境を作ったらどうか。
- ・入所保留者がH29年より若干増加しているが、H30年度新たな開所も進められていることを評価したい。なお、高学年を中心とした入所保留を勘案すると、クラブ内の在り方(過ごし方)について検討を進める必要がある。
- ・空き教室の活用や民間児童クラブの整備がなされ、努力が見られる。現状の保育環境の改善(人的、物的)は今後必要と思われる。
- ・小学生の居場所が増え良いと思います。ただ空き教室の利用が良いかどうか、保育環境はどうかわかりませんが、良い環境のもとで過ごせると良いと思います。
- ・教室の活用や民間クラブの開所など、整備が行われ、また長期休暇中の居場所づくりなど着実に進捗していると思われる。
- ・利用希望者が年々増加する中、様々な方策で定員拡大に努めていると思うが、放課後児童クラブ事業だけでは受けきれない現状もあることから、学校や公共施設等との連携を図り、多様な居場所づくりを早急に検討する必要があると感じている。又、障害児については、障害福祉サービス等利用計画で適切な療育支援が受けられるよう本人に必要なサービス(放課後デイサービス等)の周知や利用促進が図られると良い。

### (B評価)

- ・教室等を活用して低学年の児童について対策を取ったこと、民間クラブを整備していることは評価できると思います。民間クラブに空きがあるのに、入所していない理由などを調査し、改善して欲しいと思います。
- ・新たな児童クラブの整備など、努力は評価できる。高学年の入所保留に今後どう対応していくのか。また、子どもが箱に押し込められているだけでなく、居場所と思える心地よい場所になっているのか、今後に期待したい。
- ・民間のクラブが開所し、受入数は増加しているが、4年生以上の入所は難しいと思われる。長期休暇中だけでも児童、保護者が安心できる居場所作りに向けて今後も努力していただきたい。
- ・対象児童が6年生まで拡大され、利用者が増え待機児童が増加しました。6年生までの必要があるのか？5年、6年の生徒が放課後児童クラブへ行きたくない、やめたと聞いております。
- ・保育園→小学校に移る際、親の仕事が変わるわけではなく、保育園の受け入れ枠と同様、放課後児童クラブの枠が増えることを期待したい。

## コメント

・高学年までの受入れは預ける保護者にとっては安心だが、こどもにとっては学童に入っていない友達と遊べなくなるなど不自由さを感じていることもあると聞く。受け入れ枠や保育の質の保証があるならよいが、入所保留は増えており整備が十分とはいえない。また、保育士だけではなく学童指導員についてもその資質はもちろん地位向上や処遇改善に取り組んでもらいたい。

・地域による差はあると聞かすが、6年生まで在籍させたい。そもそも就労条件が合わず(夜勤は認めてもらえない等)あきらめている、長期休業中のみの受入れ検討、他市町村の取組事例を取り入れてほしい等、保護者のニーズに応えきれていない案件がまだあると感じている。対市交渉での連協からの要望書をご確認いただきたい。

### 【質疑・回答】

・放課後児童クラブは6年生になるまでとなったが、4年生になると行くのがいやだと言う子もいるという。5、6年生で預けている人はどの位いるのでしょうか。

(担当課回答)

⇒受入れ対象は6年生までとしていますが、すべての対象を受け入れるための枠を設けられていないため、3年生までの低学年は待機が出ないように受け入れをしています。保護者の方が心配という理由で4～6年生も希望者は増えています。6年生までの希望者は受け入れられるよう受け入れ枠を確保していきたいと考えているところです。正確な数字は持ち合わせていませんが、少なからず希望者はいらっしゃるという状況です。

・昨年度の会議では、4年生以降は進学塾に通われて辞退される家庭も出て来る。また、3年生までと遊びたい内容も違って来るため、限られた指導員で管理・監督するのは難しく、年少の児童向けの指導が多くなってきて高学年はつまらなくなってやめていくというお話があったかと思えます。

(担当課回答)

⇒一部、変わってきており、6年生までいるクラブもあり、指導員のスキルという面で高学年まで保育ができるようにはして行っています。1～6年生を一度に見るのは難しいため、クラス編成や保育内容など研究しながらやっていくということです。

・放課後児童クラブの指導員のスキルアップについて評価をして課題を確認したが、改善方策をどこがどのように請負い、進めていくかが重要だと思うが、どのように進めて行くのでしょうか。

(担当課回答)

⇒放課後児童クラブについては、放課後指導支援員の研修を受けることが27年度から32年度までに受けていただくことが必須となっています。研修の受講に向けて進めているところです。

・今年度、学童保育でセレクションがされた施設があったと聞いています。男の子、運動が激しい子はできるだけ避けたいということで断られたという保護者の話を聞きましたがどうでしょうか。狭いところで実施しており、難しいかと思いますが。

(担当課回答)

⇒公設の施設では入園選考となり保育の必要性で指数化しており、指数の高い方から入っていただいています。民間の施設には、市のやり方に準じて選考を行ってほしいとお願いはしているが、複数の校区から受け入れを行っているところもあり、送迎の都合で選考をしているという話は聞いています。

事業名	2-③ 子育て短期支援事業(ショートステイ事業)				
事業概要	子育て短期支援事業は、保護者の疾病や仕事等により、児童の養育が一時的に困難になった場合等に里親等で一時的に児童を預かる事業です。				
市の現状 (平成28年)	年間利用者数(延べ数) 18人				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み(延べ数) 30人 確保の内容(延べ数) 30人				
成果	年間利用者数(延べ数) 9人 平成29年度委託里親数 実績値 3世帯 ショートステイ受入日数 実績値 48日間				
推進に関する課題	緊急時にもショートステイ事業が利用できるように、より多くの委託里親を確保すること。				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	B	A	A		
	B	A	A		
コメント	(A評価) ・利用量の確保がされ事業を実施している。  ・現状の利用者数を見ると、成果が出ていると思われる。  ・実績に対して、しっかりと受け入れ体制が整っているため。  ・里親を確保することも大変だと思います。取り組まれている事業として進捗していると思います。  ・里親の確保の課題は受入れの可能性もある自分たちにも他人ごとではない課題です。現状に感謝の意でのA。  ・現行事業の継続がみられる。  ・現況で良いと思います。  ・難しいことと思いますが、進捗していると思う。				



## コメント

- ・子育て短期支援事業を必要としている親子に対応できるよう委託里親5世帯と委託契約を結んだ成果による。
- ・前年度の実績が減少した事は地域社会としては好ましいが、潜在的に必要としている家庭の把握の為に諸団体、諸機関との連携は今後も必要不可欠である。
- ・里親登録者も増え良かったと思います。ただ量の見込みに対する実績評価となっていますが、実際のショートステイ利用希望数、日数はどれくらいあったのでしょうか。この数に対する実績評価の方が良いのではないかと考えます。
- ・実績が増えることが望ましいとも言えない事業ではありますが、本当に必要な人には利用をして欲しいので、今後さらなる周知と委託里親の確保に力を入れていただきたい。
- ・必要な事業だと感じるし、利用する保護者の固定化は仕方がないと思う。埼玉県の子育て短期支援事業の実施市町村の一覧 <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0608/short-twilight/short-twilight.html> にも掲載すると周知効果が高くなるのではないかと。
- ・実績に対して十分な量の確保が出来ている。
- ・利用人数が少ないのはショートステイの事業を知られてないのだと思う。実際に利用した人の感想、利用するに至った経緯など知ることができれば緊急時に利用を考えられるのでは。
- ・現状でよいと思います。
- ・引き続き事業の継続をお願いしたい。
- ・利用実績が逡減しており、真に必要な事業かどうか再検討が必要。現時点では、利用促進に向けた担当課による制度の啓蒙・周知徹底が必要ではないかと。

### (B評価)

- ・H28年からH29年にかけて利用実績が半減している。その理由が不明。広報の問題はないか。また、社会養護から家庭養護への児童福祉がシフトしていく中、朝霞市における里親認定及び委託里親(5世帯)の拡大が望まれる。緊急時のショートステイ事業が利用できるよう委託里親の確保が問題となっているが、どのような確保体制が整備されているのだろうか。具体像が見えない。

### (C評価)

- ・制度の周知や緊急時の対応が充分とはいえない。



## コメント

### 【質疑・回答】

・課題が「緊急時にもショートステイ事業が利用できるにより多くの委託里親を確保すること」ということですが、平成29年度において、緊急時に利用できなかった事例があったのでしょうか。

(担当課回答)

⇒ありませんでした。

・「緊急時の対応」とありますが、具体的な事案があったのでしょうか。

(担当課回答)

⇒市内19世帯の里親のうち、5世帯の里親と契約を結び、子どもの受け入れを行っているが、病気の時の緊急時の対応が進まなかったということがあります。保護者と連絡がつかなかったり、かかりつけの病院が分からないなど苦労した点があったということです。

事業名	2-④ 乳児家庭全戸訪問事業				
事業概要	乳児家庭全戸訪問事業は、生後4か月までの乳児のいるすべての家庭〔新生児訪問（生後2か月まで）を含む〕を訪問し、子育て支援情報の提供や養育環境等の把握を行い、必要なサービスにつなげる事業です。				
市の現状 (平成28年)	出生者数 1,370人 乳児家庭全戸訪問数 1,259人 訪問率 91.9%				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み(訪問人数) 1,400人 確保の内容(訪問人数) 1,400人 確保の内容(訪問率) 100%				
成果	平成29年度 乳児家庭全戸訪問件数 1,219人 (新生児訪問件数1,030人 こんにちは赤ちゃん訪問件数189人)				
推進に関する課題	本事業については、すべての乳児がいる家庭に全戸訪問を実施(100%)しているが、対象児が入院中や里帰り中と不在も多く、乳児と保護者の把握がすべてできない状況が課題である。				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	B	B		
	A	B	B		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の事情により、100%は不可能だと思う。訪問率も上がっているので、Aの評価とした。未実施の家庭に対してその後のフォローをお願いしたい。</li> <li>・素晴らしいと思う。</li> <li>・100%の実施でなくても良いと思う。家庭訪問が実施できなかった理由を把握しておくのは必要だと思う。</li> <li>・就労、里帰り、入院などの理由であれば仕方ないが、一方的な拒否などもあるので、引き続き事業の継続を宜しくお願いします。</li> <li>・訪問率100%に近づけることは重要ではあるが、本評価ではむしろ、訪問できなかった家庭の理由を把握し、継続して訪問を試みる所に焦点を当てるとよいと思える。その意味で、実態が把握されていることからAが妥当と考える。</li> </ul>				

## コメント

- ・引き続き頑張してほしいと思います。
- ・自己評価では目標が100%であるためBとなっていますが、進捗状況の80%以上はA評価なのでAで良いと思います。素晴らしい数字だと思います。量の見込みに加えて対象乳児人数があると多分実績率は上がると思います。
- ・訪問実績100%が望ましいですが、訪問を受け入れるかは家庭の問題。接触できなかったとしても訪問は100%、接触できなかった方へは2度のアポなし訪問をされているとのことで、高く評価でき、接触を100%にする必要があるのかと思う。現状で十分ではないか。引き続きよろしく願います。
- ・目指す目標が、全戸100%訪問の達成は難しいかもしれないが、訪問してもらった家庭の満足度100%にすれば、達成できているのではないか(もちろん養育環境把握のためには100%訪問が理想だが)。第1子の家庭を重点的に、助けを必要としている家庭を再度訪問する、など、養育者に寄り添うサービスが提供できれば、より満足度は高くなると思う。このような訪問の際に、子育てが楽になるサービスの情報を、紙面だけでなく、より具体的に提供してもらえると養育者はありがたいのではないか。市とのパイプ役としての役割を期待。また、今後さらに「ドゥーラ(※)」のようなサービスが整備されることにも期待。  
(※)妊娠・出産、子育てをする女性を支える存在。産前産後の家事や育児をサポート。
- ・全家庭を訪問されるのは、とても大変な事だと思いますが、よく取り組まれていると思います。
- ・乳児家庭の全戸訪問事業は利用率100%を目指すのは難しいと思う。共働き世帯が多く、保健師も不足している。訪問するのは大変な労力がいると思う。

### (B評価)

- ・保健師の業務量に対する人数は足りているか。不在者へのフォローはチームで必要であれば保育課、こども未来課、障害福祉課、地域の拠点などと横とのつながりを持って対応できるとよい。
- ・訪問率実績がH27より漸増しており、関係者の努力が見て取れる。100%の全戸訪問は大変な課題であると思うが、近年の児童福祉における様々な課題を勘案すると、是非とも達成してほしい。なお、乳児と保護者の把握不能、又は、再訪問しても会うことができない(拒否がある)場合、健康づくり課のみならず、関連部署と連携をとり、状況把握に努める必要がある。
- ・100%訪問は現状厳しいと思うが、幼児虐待等を未然に防ぐ効果もあると思うので、事業の継続をお願いしたい。
- ・全戸訪問率100%を達成できていないものの、それに向けて努力している事が感じられる。
- ・入院中、里帰り中の不在については、時期を変え実施することが望ましい。
- ・対象児側の都合で把握しきれないことがほとんど。これからも協力していきたいです。
- ・訪問率が増加しているが、引き続き連絡が取れない家庭への配慮が必要になるため。

## コメント

・出生者の全戸訪問は育児支援のスタートライン。引き続き乳児・保護者の100%把握実現に努めてほしい。

・過去3年間と比較して訪問率が下がっている。

### 【質疑・回答】

・平成29年度の出生者数はいくつですか。それに対する訪問率はどのくらいでしょうか。

(担当課回答)

⇒平成29年度の出生数は1,317人(概数)で、訪問人数実績が1,219人のため、訪問率は92.6%でした。

### 【その他意見】

・人が足りない中で100%回るのは理想ですが大変ですね。努力目標として最大限回るといふことにしても良いのではないかと思います。

・80%達成できていればA評価という前提だったが、80%で良いのかという問題もあると思います。一律に80%達成できていればA評価という考え方がどうかということもあります。

・インタビューしたところ、訪問率は100%、接触できなかった家庭にはアポなし訪問2回、集団検診で確認をされているということだったので、そこまでした後は各家庭が受け入れるか否かの問題なのでA評価で良いのではないかと思います。

・2つの集計をすると良いかもしれません。実質的に保護者に出会えた割合と、出会えなかった保護者に対しどのような方法で接触を試みたか、出会えなかった保護者に対し市がどのような手立てを取ったかが分かると委員はそれを見て評価ができると思います。

事業名	2-⑤ 養育支援訪問事業及び要保護児童支援事業				
事業概要	<p>養育支援訪問事業は、育児ストレス等により、子育てに不安や孤独感を抱える家庭で、養育支援が必要な家庭を対象に、ホームヘルプ等による育児・家事の援助や助産師・保育士による相談・助言を訪問により実施しています。</p> <p>要保護児童支援事業は、さまざまな理由から家庭での養育が困難になっている児童や保護者を支援するため、関係機関で構成される要保護児童対策地域協議会を設置し、適切な保護・支援及び予防のために、必要な情報交換を行い、支援等の内容に関する協議を行い、迅速な対応をできるようにするものです。</p>				
市の現状 (平成28年)	養育支援訪問日数 3日				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み 100日 確保の内容 100日				
成果	平成29年度 支援員 8人(助産師2人、保育士4人、ヘルパー2人) 養育支援利用者(保護者) 2人 養育支援利用日数 19日				
推進に関する課題	養育支援員の確保と養育支援の必要な家庭を把握し利用を促進すること				
自己評価(上段) / 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	B	B	B		
	B	B	A		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な支援員の確保がされ支援が図られている。</li> <li>・利用がスムーズに行われているため。</li> <li>・家庭環境により、支援も異なるので大変なことだと思いますが、よく取り組まれていると思います。</li> <li>・非常に大切な事業だと思う。引き続き努力をお願いしたい。</li> <li>・支援体制が出来ている。</li> </ul>				

## コメント

- ・支援の必要な家庭の把握などに努め、必要な家庭への養育支援をしている。
- ・必要な家庭はご自身から声を出せない。これを把握されることがかなりむずかしいと思います。希望的A。
- ・実績に対し、十分な量が確保できている。制度への認知度が低いと思われるため、周知徹底する事が望ましい。
- ・育児方法が分からなくて困ったり、育児に自信が持てずに悩んだりしている保護者に対して、専門性のある養育支援訪問事業支援員が家庭訪問して、保護者の頑張りを認めたり具体的に指導したりすることで、保護者の育児ストレスは軽減され得るに違いないと思われるので、この事業が今後ますます保護者に活用されることを期待する。
- ・養育支援が必要な家庭は、実際にはもっと多くあるように思う。前年度より利用日数は増えているが、もっと周知が必要と思われるし、支援員の増加と必要な家庭の把握にますます努めていただきたいと思う
- ・養育支援が必要な家庭の把握はとても難しいと考えます。保育所をはじめ連携機関に周知するとともに、保育所等を利用していない在宅の保護者にも支援が届くと良いと考えます。
- ・育児はストレスや悩みを常にかかえています。事態の悪化を未然に防ぐために積極的な活動をしてほしい。
- ・支援が必要な家庭や児童との接点を作るには大変な苦勞があると思うが、引き続き地域、行政、関係団体機関との連携が必要である。
- ・市民の方に、このような事業があることをもっと広めたらよいと思う。

### (B評価)

- ・周知を頑張ってほしいです。
- ・支援要員に比べ利用者・日数が不十分。引き続き、関係機関と緊密に連携のうえ、支援が必要な家庭の把握に努め、また当該制度利用の周知・徹底をお願いします。
- ・H24～26年は50日～100日の実績がある。しかしながら、H27年以降の量の見込みは100日であるが、実績としては2割(H28年は3日、H29年は19日)に満たない。見込みと実績の乖離について検討が必要ではないか。また、養育支援訪問事業は、担当部署の協議を経て、訪問先家庭の理解が得られない場合、その後どのような体制でフォローアップするのだろうか。その点、気掛かりである。
- ・去年に比べ利用者も利用日数も増えたことは評価できる。養育支援訪問事業の利用決定がなされる前の具体的なルートを知りたい。言い方は悪いが、保護者にとって利用に罪悪感のない、敷居の低い、寄り添う事業であってほしいことを望む。子育ては苦しいこともあるが、本来楽しいもののはずだから。さらなる周知と利用促進を望む。要保護児童支援事業の利用がなかったことは評価すべきところなのか否か紙面では判断しかねる。

## コメント

(C評価)

・迅速、適切、丁寧な支援につながっていないと感じる。専門性のある支援員の十分な配置はもちろん、関係機関との明確でスムーズな連携を図ってほしい。地域の拠点や各関係機関とのつながりで情報共有やSOSのキャッチができればよい。

【質疑・回答】

・昨年は自己評価がBで、今年度がAである理由はなんですか。

(担当課回答)

⇒前年度と比較して利用実績が増加したことが主な理由です。ただし、見込みに対してギャップがあるため、養育支援訪問事業支援員の確保や資質向上と合わせて、日々の相談業務を通して利用者のニーズを把握し利用の促進を図ってまいります。

事業名	2-⑥ 地域子育て支援拠点事業				
事業概要	地域子育て支援拠点事業は、保育園や公共施設などの地域の身近な場所で、子育て中の家庭の交流・育児相談等を行う事業です。				
市の現状 (平成28年)	利用者数 9,207人/月 施設数 9か所				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み 9,350人/月 確保の内容 9か所				
成果	公設公営子育て支援センター 2か所 公設民営子育て支援センター 2か所 民設民営子育て支援センター 5か所 利用者数 8,006人/月				
推進に関する課題	更なる支援センターの周知				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	A	A		
	A	A	A		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実していると思う。</li> <li>・朝霞市は子育て支援センターが充実しているから子育てしやすい町として認知されていると思う。近隣住民の理解の中で存在しているので今後も地域に配慮しながら市としてどんどんPRしてほしい。</li> <li>・様々なイベントや活動があり、また、同じ年の子どもたちと交流する機会ができ、これからも継続してほしい。</li> <li>・利用者は前年度より減っているが、図書館まつりへの参加など周知を図るための努力はされている。事業内容は素晴らしいのもっと多くの方に利用していただくために、さらなる周知への努力、工夫をお願いしたい。</li> <li>・子育て支援センターでの子育てに関する相談、指導、身体測定、誕生日などの各種事業は定着しており、親子が家庭以外の居場所として、活用していることが、利用者数に表れている。</li> </ul>				



## コメント

- ・利用者数が増加している。
- ・とてもすばらしい活動をされています。
- ・周知を図るための方法も考えられている。
- ・施設の数、利用者数ともに成果が出ていると思う。今後も、様々な形での周知をお願いしたい。
- ・様々な取り組みや周知など、進んでいると思います。
- ・実績に対して、しっかりと受け入れ体制が整っているため。
- ・各子育て支援センターで様々な事業の実施やセンター以外の場所でも周知活動を展開しながら利用促進が図られている。
- ・申し分ないと思う。各施設の特徴があって、支援センター巡りも面白い。欲を言えば、さらにアットホームな雰囲気があると落ち着く。
- ・市内に子育て支援センターが地域に9か所あり利用者も着実に地域に浸透しております。専門の職員が育児相談や楽しい行事も行っております。
- ・私も育児休暇中、利用させて頂き、話し相手、悩みを相談できる機会を得られたことが本当に有意義だった。知らずに過ごしているのはもったいない！更なる周知活動をお願いしたい。
- ・増えればより良いと思います。
- ・ホッとできる居場所として、気軽に多くの方に利用してもらいたい。そして身近な支援センターだからこそ受けられるデリケートな相談には真摯に対応し、必要があれば各関係機関と連携し支援していけたらよい。
- ・市役所のホームページ等を活用した、利用者向けの積極的な情報発信実施も一考。
- ・着実な成果を残している。専門性の高い職員が子育て家庭の交流・育児相談を行っているようだ。しかし、交流と相談業務はかなりの隔たりがある。職員の専門性をどのように確保し向上させているのかは重要な課題である。

## コメント

### 【質疑・回答】

・平成28年度よりも利用者数がずいぶん減ったのはどのような理由でしょうか。

(担当課回答)

⇒保育園等の増加により、保育園などの施設に入所していない未就学児が減っていることから利用者が減少傾向にあると考えております。また、これまでは、幼稚園に入園する家庭では、3歳まで継続して子育て支援センターを利用することが多かったのですが、小規模保育施設などに入所してから幼稚園に入園するケースが増え、子育て支援センターを使用する期間が短くなっていると各子育て支援センターから伺っております。

事業名	2-⑦ 一時預かり事業				
事業概要	さまざまな理由で、家庭において保育を受けることができない乳幼児を対象に、幼稚園や保育園において、一時的に預かる事業です。				
市の現状 (平成28年)	利用者数 5,868人/年 利用者数 19人/日(平均)				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み 47人/日 確保の内容 67人/日				
成果	<p>①利用者数:H29:4,838人/年(16人/日)</p> <p>東朝霞保育園 H29:769人 さくら保育園 H29: 869人 H28:648人 H28:1,244人</p> <p>仲町保育園 H29:2,591人 朝霞どろんこ保育園 H29:609人 H28:3,095人 H28:881人</p> <p>非定型保育サービス…利用者数 延べ2,143人 緊急保育サービス…利用者数 延べ615人 リフレッシュサービス…利用者数 延べ2,080人</p> <p>②家庭保育室8室にて一時保育を受けた保護者へ補助を行った。</p>				
推進に関する課題	利用条件や利用方法などの周知				
自己評価(上段) / 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	A	A		
コメント	(A評価)				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用量の確保が十分にされて事業を実施している。</li> <li>・安定した成果が確認できる。</li> <li>・引き続き、努力をお願いしたい。</li> <li>・利用者も多く、継続していけると思います。</li> <li>・事業としての成果が得られている。</li> <li>・事業の継続がされている。</li> </ul>				

## コメント

- ・利用方法の周知をすすめて下さい。とても便利なのは？
- ・一時預かり事業の活用理由の中の、育児疲れなどによるリフレッシュサービスの利用者数が全体の43%を占めている。推進に関する課題として利用条件や利用方法などの周知とあるように、周知を通して、上手に活用して、育児ストレスの軽減を図り、楽しく育児ができるように保護者を応援する事業としてさらに根付いて欲しい。
- ・進捗している。
- ・今後、更に利用者は増えると思われる。子育て家庭で様々な事由が発生した時に頼りになる事業であると思う。利用枠の増加を望む声も多所で聞かれる。
- ・一時的に預かってもらえる場所があるのは安心できる。利用できる園が少ないので、今後増えてほしい。
- ・保護者にとってはありがたい制度だと思います。
- ・実績に対して、しっかりと受け入れ体制が整っているため。引き続き、保護者に周知し利用者数の増加に繋がると良い。
- ・現況でよいと思うが、もう少し登録園が増えるとよい。
- ・増えればより良いと思います。

### (B評価)

- ・実際に利用しているが、希望者が非常に多く、希望通りに保育サービスを受けることが困難。紙面の確保内容の数字とは乖離している印象。かつ手続きが煩雑で制限も多い。広い朝霞市で、もう少し利用できる園や保育室を増やして欲しい。一時保育枠を拡大し、利用しやすくすれば、子育てと仕事のバランスを均等にする家庭も増え、待機児童の解消にも繋がると考えているのだが。サービスの拡大を期待する。
- ・緊急預かり枠の確保とそのスムーズな受け入れ、利用の仕組みの必要性を感じる。
- ・前年度より利用者がかかり減っているところが気になる。需要はかなりあると思うので…。
- ・施設ごとの利用者数の状況、前年対比で大幅減など格差があるが、原因把握はできているのか。

### 【質疑・回答】

- ・施設ごとの利用者数の状況、前年対比で大幅減など格差があるが、原因把握はできているのか。

(担当課回答)

⇒一時預かりは、利用する児童の年齢構成によって預かれる児童の数が変わります。定期的に利用する児童の年齢構成が前年度より高い施設では利用者数が増え、年齢構成が低くなった施設では利用者数が減る傾向にございます。

事業名	2-⑧ 病児・病後児保育事業				
事業概要	<p>児童が急な病気となり、保育園等が利用できず、また、保護者も就労などにより、保育ができない場合に、病院や保育園などに併設される専用の保育室で、看護師等が一時的に保育を行う事業です。発病中や療養中で集団保育が困難な児童を対象とする病児保育と、病気回復期で集団保育が困難な児童を対象とする病後児保育に分けられます。</p>				
市の現状 (平成28年)	<p>市が直営事業として、病児保育を病院などに併設する「医療機関併設型」での実施に向けて、事業用地などの検討を行っています。また、民営保育園及び市指定家庭保育室で、独自に病後児保育を実施している施設があります。</p>				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	<p>量の見込み 5人/日 確保の内容 0人/日</p>				
成果					
推進に関する課題	<p>事業開始の時期は決まったが、病児保育の実施には至っていない</p>				
自己評価(上段)／ 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	C	C	C		
	C	C	B		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TMG内で病児保育室が開設され、大きく進捗した。ただ個人的には、子供のことを考えると利用は少なくあってほしいと思う。</li> <li>・待望の病児保育施設の開設に期待を寄せて。今後の動向に注目したい。</li> <li>・事業開始になった事を評価します。ただ、実際に利用するとなると、手続き、場所等において壁を感じます。より利用しやすい制度になる事を期待します。</li> <li>・計画がすすみ、設置された。</li> </ul> <p>(B評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度始めには施設も完成し、事業も開始できると思われるので、積極的に評価し、その結果を見守りたい。</li> </ul>				

## コメント

- ・すでに事業が開始されたことは大変喜ばしいことです。平成29年度末にはまだ実施されていませんでしたが、すでに事業が開始されているので、Bでよいと思います。
  - ・協議の準備が進んでいたとのことなので、6～7割進捗していると考えられますのでB評価となるとと思います。
  - ・7月より開始と聞いたので。
  - ・医療機関との連携により事業開始に至ったことは評価できる。実施、利用の状況により協議、調整を重ねる必要がある。
  - ・H30年7月より「医療機関併設型」の病児保育が進められている。確実に事業が推進されていると考える。なお、他の市町村では、民営保育施設において病児・病後児保育が進められているケースもある。そうした施設への視察実施に基づき、今後の事業推進について検討する余地はあるのではないだろうか。
  - ・事業が開始されることの説明を受けた。今後の利用状況などを会議の中でも報告して頂きたい。
  - ・事業の実施により得られた成果は無しということで、Cという自己評価は妥当とも言えるが、平成30年7月の事業開始に向けての準備はかなり以前から進められているもので、水面下の準備や相手先との交渉を鑑みてBが妥当ではないかと考える。
  - ・期待しています。
  - ・今後、病児保育を開始するとの事で期待しています。
  - ・病児病後児保育事業について市内医療機関と締結したと聞いております。これからの医療機関との連携に期待したい。
  - ・病院がやってほしい事業です。
- (C評価)
- ・ニーズが高い事業の一つであると考え。H30年度以降も受け入れ態勢の拡充が、望まれる。
  - ・事業が開始されたのは良いが、預ける親としては病児・病後利用できる病気・症状などの把握が難しく敷居が高い。
  - ・あまりわからないので、そのままC。
  - ・実際の所は病児を預けるのに手続きや症状等で受け入れられない場合もあるので、難しい事業であると思います。

## コメント

・まだ実施に至っていないとのことだが、病児・病後児保育は他機関との連携が必要不可欠であるので、着実な調整をお願いし、安全に安心して利用できるようにして頂きたい。

・病児保育の実施がされていないため。

### 【質疑・回答】

・事業としては平成30年度に施設が完成し、事業がスタートしたところかと思いますが、29年度末には事業は始まっていないが施設は完成していて運用がどうなっているか気になるところです。その後、現在の利用状況等を教えていただけるとありがたいです。

(担当課回答)

⇒定員5名、平成30年7月オープンから月10から20名の利用、1日2名の利用となっています。予約したが回復したり、祖父母がみる等でキャンセルとなり、利用に結びついていませんが、登録は多くなっています。

### 【その他意見】

・受け入れ体制が整ってくれば利用者も増えて体制も良くなるのではないかと思います。

事業名	2-⑨ ファミリー・サポート・センター事業				
事業概要	ファミリー・サポート・センター事業は、育児の援助をしたい方(提供会員)と、育児の援助をしてほしい方(依頼会員)が会員となり、地域の中で助け合いながら子育ての援助活動をする会員組織で相互の活動の連絡・調整を実施する事業です。				
市の現状 (平成28年)	会員数(依頼・提供会員数)	1,316人			
	利用件数	3,136人/年			
	利用件数	8人/日(平均)			
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み	17人/日			
	確保の内容	17人/日			
成果	ファミリー会員:1,132人	サポート会員:159人	両方会員:103人	合計:1,394人	利用件数:3,091人
推進に関する課題	サポート会員の拡大				
自己評価(上段)／子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	A	A		
	A	A	A		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員数、利用数とも増加傾向にあり、着実に実施を行っている。</li> <li>・定期的な件数を実施して、安心して子を預けられる、利用できる事業を継続して欲しい。</li> <li>・良い事業だと思います。</li> <li>・多様化していく社会の中で、利用者も増えていると感じます。取り組みとして順調のように思います。</li> <li>・地域で子育てするという視点から、非常に大切な事業だと考える。引き続きの努力をお願いしたい。</li> </ul>				



## コメント

- ・実績に対して、しっかりと受け入れ体制が整っているため。引き続き、講習会などでサポーターの資質向上や情報交換などがなされると良い。
- ・ファミリー会員、サポート会員も増加しており、確実に成果をあげている。
- ・引き続き頑張ってもらいたいと思います。
- ・事業PRやサポート会員の拡充を今後も続けてほしい。資質の向上や無事故を継続して頂きたい。
- ・進捗している。
- ・サポート会員の更なる拡大を推進の課題として抱えながらも、H29年度の確保の内容が1日最大で22人とあり、ファミリーサポートセンターの事業のねらいである地域の中で助け合いながら子育ての援助活動をする会員組織作りが着実に位置づいていることが伺える。
- ・一定の認知度は出ていると思われる。
- ・着実に成果を残している。ファミリー会員からサポート会員へと変わっていただける循環ができることが望ましい。サポート会員の援助の質向上に向けた研修を組織することも望まれる。
- ・依頼・サポート会員の登録が平日のみと伺いました。可能であれば、登録機会を増やして、サポート会員の増員ができればと思います。
- ・引き続き推進願いたい。
- ・会員数が着実に増加している。他の自治体での同様の制度利用時の事故等を耳にする事があるので研修等をしっかりしていただきたい。
- ・事業の継続がされている。

### (B評価)

- ・ファミリー会員は増加しているが、サポート会員は減少し、不足していると思われる。実際にサポートを希望しても、条件に合わず成約しないケースもあるとのことで、サポート会員の拡大にますます努めていただきたいと思う。

### (C評価)

- ・ファミリー会員に対してサポート会員が少なすぎ、需要と供給があっていない。また相互の連絡調整がスムーズでないとの声も聞く。やりがいと感謝で助け合うよい事業なので適正な周知でバランスよく拡大充実してほしい。

## コメント

・依頼会員の増加に対し、提供会員が横ばいで、提供会員の掛け持ちなど負担が増えている。提供会員を増やすための説明会が年2回開催で、各回3日間の受講が必須という現況では提供会員の増加が難しいと考えられるため。研修会の機会の増加や開催の仕方に工夫が必要。また、提供会員になりたいという人を増やすためのPRの仕方にも、保障制度や体験者の声を載せるなど不安面を取り除く工夫が必要。

### 【質疑・回答】

・確保の内容に比べると実績の人数が低いですが、これで自己評価がAなのはどのようにしてでしょうか。

(担当課回答)

⇒確保の内容17人／日に対して、サポート会員159人、両方会員103人で合わせて262人が援助できる状況です。262人全員が毎日援助できる訳ではございませんが、最大で22人／日が利用している実績がございます。また、急な依頼や早朝、夜の遅い時間帯などマッチングが難しい依頼をお断りすることはございますが、その他は概ね依頼を受けることができていることから、自己評価をAとしました。

事業名	2-⑩ 妊婦健康診査				
事業概要	妊婦健康診査は、妊婦の健康の保持増進を図り、安全、安心な妊娠、出産に資するために適切な健診を行う事業です。				
市の現状 (平成28年)	対象者数 1,427人 受診者数 1,413人				
事業の見込み、 確保内容 (平成29年)	量の見込み(受診者数) 1,500人 確保の内容(受診者数) 1,500人				
成果	平成29年度 活動指標:妊婦一般健康診査公費負担回数 目標・計画 14回 実績14回 成果:妊婦一般健康診査受診者数 1,381人 妊婦一般健康診査受診率(1回目を評価) 目標・計画 97% 実績 97%				
推進に関する課題	妊婦健康診査の受診を経ず、出産に至る方も数件存在している。本事業は、妊婦健康診査に係る経済的負担が軽減される事から、母子の健康管理のためにも妊婦健康診査の効果的活用が図られるよう、さらなる周知を図る必要がある。				
自己評価(上段) / 子ども・子育て会議 評価(下段)	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年
	A	A	A		
	A	A	A		
コメント	<p>(A評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価に基づく実施回数や受診率が達成されている。</li> <li>・健診の費用が高額となるので、頼りになる事業だと思う。</li> <li>・良い事業だと思います。</li> <li>・良く取り組んでいただいていると思います。</li> <li>・現行事業を引き続き実施して頂きたい。</li> <li>・実績に対して、しっかりと受け入れ体制が整っているため。</li> <li>・子育てしやすい町づくりのために、これからも継続をお願いしたい。市としての妊婦健康診断の対応はよくできている。</li> </ul>				

## コメント

- ・市として対応できていると思います。
- ・妊婦一般健康診査の補助をする事で高い受診率につながっていると思う。必要不可欠な事業であると思う。
- ・進捗している。
- ・妊婦の一般健康診査受診率の目標値と実績が同数で、しかも高い受診率であることからA評価は妥当と言える。
- ・健康診査を受診できる環境の整備は出来ているから。ただ、受診されない方の調査、サポートをお願いしたいです。使用できる範囲の拡大なども検討できないのでしょうか。
- ・着実に成果を残している。妊婦健康診査を受診しないで出産する事例があるようだが、そのフォローアップはできているのか。他機関との連携が必要と思われる。
- ・引き続き推進願いたい。
- ・十分な内容だと思います。
- ・事業の継続がされている。
- ・経済的負担の軽減が高い受診率、母子の健康管理につながり、安心安全な妊婦生活、出産につながるので、今後も継続してほしい。
- ・母子の健康管理、安全安心な妊娠出産につながっていることと評価できる。母子手帳交付が保健センター内の子育て包括センターで行われているが、朝霞台駅利用の市民にとってはそこまで行くのに負担を感じるとの声も聞く。市内にいくつかの拠点を置き、そこが連携しあって機能していくことはできないか。気軽につながれる拠点の整備で更なる安心が得られるのでは。
- ・素晴らしい事業であると思う。100%を目指して欲しい。

### 【質疑・回答】

- ・さらなる周知を図るためにどのような方法を取るのでしょうか。

(担当課回答)

⇒妊婦の健康管理の向上を進めていくためにも、さらなる周知のために市ホームページ上で、新たに「妊娠、出産、育児期の流れ」をフロー図として作成し、視覚的に見ていただけるような内容へ変更しております。今後におきましても、情報をわかりやすく提供できるよう、工夫してまいります。

## 5. 子ども・子育て支援事業計画関連事業の進捗状況

各事業を実施する担当課から提出された関連事業進捗管理シートをもとに、事業ごとの進捗状況について朝霞市子ども・子育て会議において評価した結果をまとめました。

基本目標1 すべての子どもが質の高い教育・保育を受けるまち

基本方針1-1 教育・保育の充実のために 進捗状況 A:80%以上 B:79%~60% C:59%~40% D:39%以下

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 幼稚園、認定こども園、保育園、家庭保育事業等の充実	1		保育事業	保育課	A	A	A		
	2		私立保育園就園費補助事業	保育課	A	A	A		
	3		家庭保育室補助事業	保育課	A	A	A		
	4		幼稚園事業	保育課	A	A	A		
(2) 放課後児童クラブの充実	5		放課後児童クラブ事業	保育課	B	A	A		

基本方針1-2 ライフスタイル(生活様式)に応じた支援のために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 多様な子育て支援の充実	6		ファミリー・サポート・センター事業	保育課	A	A	A		
	7		時間外保育事業(延長保育事業)	保育課	A	A	A		
	8		一時預かり事業	保育課	A	A	A		
	9		休日保育事業	保育課	A	A	A		
	10		病児・病後児保育事業	保育課	C	C	B		
	11		子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	こども未来課	A	A	A		

基本方針1-3 教育・保育の質を高めるために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 教育・保育に携わる人材の確保・資質向上	12		保育士研修事業	保育課	A	A	A		
	13		児童・生徒の教育に関する学校内での研修会	教育指導課	A	A	A		
	14		小学校と幼稚園・保育園の連携	教育指導課	A	A	A		

基本目標2 すべての子どもがすくすく育つまち

基本方針2-1 子どもの人権の尊重のために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 子どもを虐待や人権侵害、貧困から守るための社会づくり	15		児童相談事業	こども未来課	A	A	A		
	16		虐待防止に関する教育相談の実施	教育指導課	A	A	A		
	17		児童虐待防止に関する意識の普及啓発	こども未来課	A	A	A		
	18		いじめ不登校対策会議の活用	教育指導課	A	A	A		
	19		DV相談事業	人権庶務課	A	A	A		
	—	再	子育て短期支援事業(ショートステイ事業)	こども未来課	—	—	—		
	20		里親制度の周知	こども未来課	A	A	A		
	21		施設における人権擁護等の体制整備の検討	保育課	B	B	B		
	22		いじめ防止に対する取り組み	教育指導課・こども未来課	A	B	A		
(2) 子どもの意見や視点の尊重	23		朝霞「未来・夢」子ども議会	市政情報課	A	A	A		
	24		「私たちの道徳」の活用	教育指導課	A	A	A		
	25		カウンセリングの実施	教育指導課	A	A	A		
(3) 子どもの生きる力を育成する学校教育環境の充実	26		先進校の視察	教育指導課	A	A	A		
	27		あさかスクールサポーターの活用	教育指導課	A	A	A		
	28		球技大会、陸上競技大会等の実施	教育指導課	A	A	A		
	29		学校総合体育大会、新人体育大会等の実施	教育指導課	A	A	A		
	30		地域人材活用支援事業	教育指導課	A	A	A		
	31		学校保健委員会の実施・充実	教育指導課	A	A	A		
	32		朝霞市小学校低学年複数担任制事業	教育指導課	A	A	A		
	33		社会体験チャレンジ事業	教育指導課	A	A	A		
	34		朝霞第五中学校特認校制度	教育管理課	A	A	A		
	35		保健体育、家庭科、道徳等の授業で知識の習得	教育指導課	A	A	A		

基本方針2-2 特別な配慮が必要な子どものために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 障害のある子どもと その保護者への支援	36		障害児放課後児童クラブ事業	保育課	A	A	A		
	37		育み支援バーチャル支援センター事業(発達障害児者支援体制)	健康づくり課	A	B	B		
	38		重度心身障害者自動車燃料費助成事業	障害福祉課	A	A	A		
	39		重度心身障害者福祉タクシー利用料金助成事業	障害福祉課	B	B	A		
	40		紙おむつ給付事業	障害福祉課	A	A	A		
	41		補装具の交付・修理	障害福祉課	A	A	A		
	42		日常生活用具支給	障害福祉課	A	A	A		
	43		生活サポート事業	障害福祉課	A	A	A		
	44		育成保育事業	保育課	A	A	A		
	45		朝霞市はぐくみ補助金	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	46		障害者週間における啓発事業	障害福祉課	A	A	A		
	47		朝霞市障害児就学支援委員会専門員による就学相談	教育指導課	A	A	A		
48		放課後等デイサービス事業	障害福祉課	A	A	A			
(2) ひとり親家庭等の 支援	49		ひとり親家庭への自立・生活支援事業	こども未来課	A	A	A		
	50		児童扶養手当の支給	こども未来課	A	A	A		
	51		ひとり親家庭等医療費の助成	こども未来課	A	A	A		
	52		母子生活支援施設入所	こども未来課	B	B	A		
	53		外国人世帯の支援	各課	A	A	A		

基本方針2-3 地域の中の子どものために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 子どもたちの居場所 づくり	54		児童館運営事業	こども未来課	A	A	A		
	55		学校体育施設の開放	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	56		児童遊園地、公園の整備	みどり公園課	B	B	A		
	57		図書館における子ども向け事業	図書館	A	A	A		
	58		放課後子ども教室	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	59		冒険遊び場づくり事業(プレーパーク)	みどり公園課	A	A	A		
(2) 子ども同士の交流の 機会の提供	—	再	放課後子ども教室	生涯学習・スポーツ課	—	—	—		
	60		市民総合体育大会、ロードレース大会、小学生スポーツ教室、ウォークラリー大会等の開催	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	61		夏休みこども水辺教室	環境推進課	A	—	—		

基本目標3 すべての家庭が安心して子育てするまち

基本方針3-1 すべての子育て家庭のために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 子育てを支える環境づくり	62		子育て情報の提供	こども未来課	A	A	A		
	63		児童手当の支給	こども未来課	A	A	A		
	64		小児救急医療における朝霞地区4市との共同事業	健康づくり課	A	A	A		
	65		こども医療費の助成	こども未来課	A	A	A		
	66		難病患者見舞金(小児慢性特定疾患患者を含む)	障害福祉課	A	A	A		
(2) 家庭における子育て支援の充実	67		子育て(育児)講座	中央公民館	A	A	A		
	68		あさか学習おとどけ講座	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	69		内職相談	産業振興課	B	B	B		
	70		家庭教育学級の開催	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	71		ブックスタート事業	図書館	A	A	A		
	72		家庭教育学級事業補助金	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
	73		家庭教育学級補助金	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
(3) 生まれる前から乳幼児期までの一貫した支援	74		子育て電話相談	保育課	A	A	A		
	75		母子保健相談事業	健康づくり課	A	A	A		
	76		栄養相談事業	健康づくり課	A	A	A		
	77		妊婦健康診査	健康づくり課	A	A	A		
	78		母子健康教育事業	健康づくり課	A	A	A		
	79		乳幼児健康診査	健康づくり課	A	A	A		
	80		歯科保健事業	健康づくり課	A	A	A		
	81		各種予防接種の実施	健康づくり課	A	A	A		
	82		母子健康手帳交付事業	健康づくり課	A	A	A		
	83		未熟児養育医療費給付事業	健康づくり課	A	A	A		
	84		妊娠期からの包括的な子育て支援	健康づくり課	A	A	A		

基本方針3-2 地域における子育てのために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 子育てネットワークの充実	85		子育て支援センター事業	保育課	A	A	A		
	86		保育園園庭開放(いっしょに遊ぼう保育園で)	保育課	A	A	A		
	87		PTA連合会補助金	生涯学習・スポーツ課	A	A	A		
(2) 子どもの健全育成の充実	88		朝霞地区青少年健全育成地域の集いの開催	教育指導課	A	A	A		
	89		青少年育成事業	こども未来課	A	A	A		
	90		朝霞市ふれあい推進事業	教育指導課	A	A	A		



施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(3) 世代を超えた子育て支援の推進	91		農業体験事業	産業振興課	A	A	B		
	92		児童館における高齢者と児童の交流事業	長寿はつらつ課	A	A	A		
	93		朝霞市ぐらんぱ育児支援事業	健康づくり課	B	B	—		

基本方針3-3 子どもの安心・安全のために

施策の方向性	事業番号	再掲	事業名	担当課	進捗状況				
					27	28	29	30	31
(1) 子どもが犯罪・事故に巻き込まれない社会づくり	94		朝霞市生徒指導委員会の開催	教育指導課	A	A	A		
	95		朝霞地区学校警察連絡協議会の開催	教育指導課	A	A	A		
	96		通学路等での定期・臨時パトロールの実施	教育指導課	A	A	A		
	97		学校警察連絡協議会、生徒指導組織の協力	教育指導課	A	A	A		
	98		防犯ブザーの貸与	教育総務課	A	A	A		
	99		非行防止教室の実施	教育指導課	A	A	A		
	100		通学路の安全点検	教育管理課	A	A	A		
	101		防犯灯設置工事費補助金の交付	危機管理室	A	A	A		
	102		防犯灯維持管理費補助金の交付	危機管理室	A	A	A		
	103		広報による防犯啓発活動	危機管理室	A	A	A		
	104		朝霞防犯パトロール隊の認定	危機管理室	A	A	A		
	105		道路区画線の工事	まちづくり推進課	A	A	A		
	106		交通立看板、警戒標識等の設置	まちづくり推進課	A	A	A		
	107		新入学児童への交通安全教育の実施	まちづくり推進課	A	A	A		
	108		市立保育園、私立幼稚園に交通ルールの指導	まちづくり推進課	A	A	A		
	109		交通安全教室の実施・研修会への参加	まちづくり推進課	A	A	A		
	110		自転車運転免許制度の実施	教育指導課	A	A	A		
	(2) ユニバーサルデザインに配慮したまちづくり	111		交通安全運動チラシによる啓発活動	まちづくり推進課	A	B	A	
112			学校施設に対する教室等の空気検査	教育管理課	A	A	A		
113			都市計画道路の整備	まちづくり推進課	A	A	A		
114			市道整備・道路管理の充実	道路整備課	B	A	A		
115			すべての方が利用しやすい市庁舎の整備	財産管理課	A	A	A		

## 6. 朝霞市子ども・子育て会議活動状況

### ①平成30年度朝霞市子ども・子育て会議

開催日	議題
第1回 平成30年7月27日	(1) 保育園保育料について (2) 平成31年4月に向けての保育園等整備について (3) 朝霞市保育認定利用調整基準表の見直しについて (4) 子ども・子育て支援事業計画の進捗管理について
第2回 平成30年11月28日	(1) 平成31年4月に向けての保育園等整備について (2) 平成31年4月開所保育所等の利用定員設定について (3) 平成31年4月に向けての放課後児童クラブ整備について (4) 第二期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定について
第3回 平成30年12月18日	(1) 子ども・子育て支援事業計画の評価について (2) 第二期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定について
第4回 平成31年2月18日	(1) 朝霞市子ども・子育て支援事業計画 平成29年度実施事業進捗状況報告書について (2) 第二期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定について (3) 平成31年4月に向けての居宅訪問型保育事業の実施について
第5回 平成31年3月27日	(1) 朝霞市子ども・子育て支援事業計画 平成29年度実施事業進捗状況報告書について (2) 第二期朝霞市子ども・子育て支援事業計画の策定について

### ②インタビュー

開催日	内容等
平成30年8月24日	「施設における人権擁護等の体制整備の検討」、「内職相談」、「ファミリー・サポート・センター事業」について、事業担当課（保育課、産業振興課）へのインタビューを実施

## 7. 朝霞市子ども・子育て会議条例

平成25年9月27日条例第51号  
改正 平成26年3月31日条例第5号  
平成29年12月20日条例第21号  
平成30年9月28日条例第20号

### (目的)

第1条 この条例は、朝霞市子ども・子育て会議の設置、組織及び運営に関する事項を定めることを目的とする。

### (設置)

第2条 子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号。以下「法」という。）第77条第1項の規定に基づき、市の子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、朝霞市子ども・子育て会議（以下「子ども・子育て会議」という。）を置く。

### (所掌事務)

第3条 子ども・子育て会議は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 法第77条第1項各号に規定する事務を処理すること。
- (2) 子ども・子育て支援に関する施策の実施状況を調査審議すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要と認めること。

### (組織)

第4条 子ども・子育て会議は、委員25人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 知識経験を有する者
- (2) 法第6条第2項に規定する保護者
- (3) 法第7条第1項に規定する子ども・子育て支援に関する事業に従事する者
- (4) 公募による市民又は公募委員候補者名簿に登載された市民
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める者

### (会長及び副会長)

第5条 子ども・子育て会議に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選によってこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、子ども・子育て会議を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(任期)

第6条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第7条 子ども・子育て会議の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、その議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

4 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提供を求めることができる。

(部会)

第8条 会長は、必要があると認めるときは、会議に諮って部会を置くことができる。

2 部会に属する委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長を置き、会長が指名する委員をもってこれに充てる。

4 部会長は、部会の事務を総理する。

5 部会長に事故があるときは、あらかじめ部会長が指名する委員がその職務を代理する。

(庶務)

第9条 子ども・子育て会議の庶務は、こども・健康部こども未来課及びこども・健康部保育課において処理する。

(雑則)

第10条 この条例に定めるもののほか、子ども・子育て会議の運営に関し必要な事項は、会長が会議に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和32年朝霞市条例第2号）の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則（平成26年条例第5号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成29年12月20日条例第21号抄）  
（施行期日）

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成30年9月28日条例第20号）  
この条例は、公布の日から施行する。

## 8. 朝霞市子ども・子育て会議委員名簿（平成30年度）

区 分	選出団体等	氏 名	備 考
1号 知識経験を有する者	十文字学園女子大学	山田 陽子	会長
	学校法人東洋大学	嶋崎 博嗣	副会長
2号 保護者	朝霞市保育園保護者会連絡会	大久保 扶美枝	
	民営保育園保護者	早川 直子	
	幼稚園保護者	那須 朋子	
	朝霞市PTA連合会	高橋 松久	
	小規模保育保護者	浅野 直美	
	朝霞市放課後児童クラブ連絡協議会	土佐 静香	
3号 子ども・子育て支援に関する 事業に従事する者	朝霞市社会福祉法人民間保育園連絡協議会	金子 雅美	
	朝霞市小規模保育事業者	横田 結香	
	東上地区私立幼稚園協会朝霞支部	佐藤 順與	
	朝霞市社会福祉協議会	鳥居 功	
	朝霞地区福祉会みつばすみれ学園	重野 泰弘	
4号 公募による市民等	公募市民	岡田 一成	
	公募市民	長谷川 玲奈	
	公募市民	廣澤 順子	
5号 その他	NPO法人なかよしねっと	中平 育子	
	元子どもプラン委員	山谷 真名	
	朝霞市自治会連合会	星野 隆	
	こども会連合会	渡邊 俊夫	
	朝霞市商工会	小野寺 寛	
	連合埼玉朝霞・東入間地域協議会	藤田 勇	
	朝霞市青少年育成市民会議	金子 幸男	
	朝霞市民生委員・児童委員協議会	安福 直美	

（順不同、敬称略）